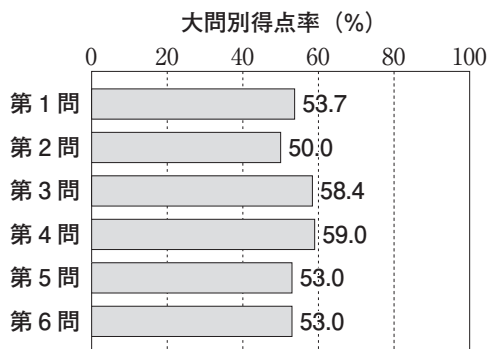
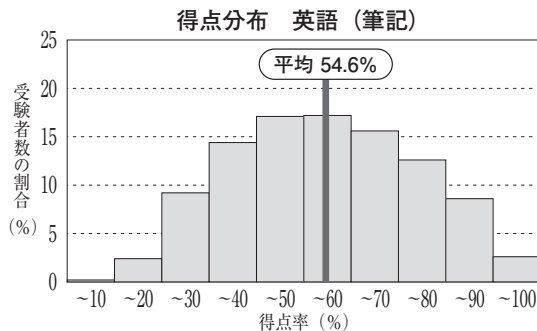


## 英語 (筆記)

まず文法学習を中心として英語力の基礎を固めよう。

## I. 全体講評

本年度のセンター試験には、昨年までと比較して一部に変化が見られたが、それは形式上のことであり、出題の狙いには変わりがない。当然ながら、今後のセンター試験本番レベル模試はその傾向を踏まえて問題を提供していくことになるが、2月の第1回目に関しては旧形式を踏襲している。多少形式が変わっても、求められる能力に本質的な違いはないので、受験生諸君は今回の結果を見て、各自に必要な対策を立ててもらいたい。その第1回目の受験学年の平均点は109.1点で、この時期としては悪くない成績であった。また、すべての大問が得点率50%をクリアしており、バランス面もよかった。これを出発点として、来年度の本番を迎える頃には大きく成長してほしい。



## II. 大問別分析

## 第1問 発音・アクセント

## 発音の基本を確認しよう！

センター試験の第1問は基本的な出題形式を採用している。Aの発音問題が3問、Bのアクセント問題が4問である。今回の第1問の得点率は53.7%であった。全体としては平均的な出来であるが、内訳を見ると、Aが48.1%、Bが58.0%と、発音問題の方がやや不振であった。小問ごとの正答率を見ると、Aに30%台の箇所が2つあり、それが大きく響いたことがわかる。その1つは問1で、基本的なaの二重母音と短母音の2つの音の区別を求めるものである。もう1つは問3で、sの発音を問うものであるが、[s]、[z]、[ʃ]、[ʒ]の違いもしっかりと理解しておこう。

## 第2問 文法・語法・整序作文・応答文完成

## 文法を中心に幅広い知識を身につけよう！

今年のセンター試験の第2問は一昨年から続いている形式だった。今回の本模試での得点率はちょうど50.0%であった。内訳は、Aの文法・語法・語彙問題が57.5%、Bの整序問題が42.0%、Cの応答文完成問題が45.5%だった。AとBに関しては、小問ごとの正答率がばらつく傾向があるが、今回のAでは正答率が10%台に終わった小問が1つだけあって、他がいずれも50%をクリアしていたために非常に目立っている。それは問4のnext to (= almost)の意味を問う問題であった。ちょっとしたイディオム問題である。また、Bの整序問題では問2、問3が不振であったが、それぞれ分詞、to不定詞がポイントになっていた。ここで鍵を握るのは文法力である。文法・語法・語彙の知識は第2問の成績に大きく影響するだけでなく、読解問題征服のための基盤を成すとも言えるので、ぜひとも早いうちに対策を講じてほしい。

**第3問 文脈把握(対話文空所補充・文削除・要約)****文章の種類を問わず、文脈把握力を高めよう！**

今年のセンター試験の第3問は、昨年まで出題されていた会話問題がなくなり、不要文削除と要旨選択の問題のみになった。しかし、このパートでは、ひとまとまりの英文を与え、その全体的な文脈を読み取る力を試そうとする出題の意図は不変である。今回の第3問は旧形式によるものだが、全体の得点率は58.4%で、まずまずの出来と言ってよいであろう。内訳を見ると、Aの会話問題の平均正答率が48.3%で、不要文削除のBが51.4%、意見の要旨を選ぶCは68.8%だった。小問別の正答率を見ると、AとBに20%台、30%台に留まった箇所が1つずつあった。間違えた箇所があれば、各自解説を参照しながら見直してほしい。第3問で試されているのは文脈把握力であり、それは日頃の読解作業を通じて養う他はない。

**第4問 説明文と図表・説明文書などの読み取り****広告文書の読み取りにもう少し注意を！**

今回の第4問の得点率は59.0%で、今回の大問の中では最も良い成績であった。Aについては、全体の平均が66.8%、Bは48.8%と、はっきり明暗が分かれた。小問の正答率を見ても、Aは60~70%台と安定していたのに対し、Bは30%台から約60%とばらついていた。ここはセンター試験に特有の形式であり、また特に細部の情報の読み取りに注意が必要である。とりわけBの場合は本文の該当箇所が特定しやすいので、あとはそれを正確に読み取り、いかに厳密に選択肢と照合するかにかかっている。今後はこの形式に慣れるとともに、精読の訓練も怠らないようにしたい。

**第5問 文学的文章の読解****ストーリー性のある英文にも親しもう！**

センター試験の第5問には、ここ数年物語を本文の素材とした問題が出ている。今年の本文はやや風変わりなSF的ストーリーだったが、文章スタイルや設問形式はそれ以前と本質的に変わらない。ストーリー性や主観性に重点を置いた素材文に慣れ親しんでおくことは今後も重要であろう。今回の第5問は全体の得点率が53.0%と平均的であった。ただし、小問別正答率は20%台から70%台と大きなばらつきが見られた。最も不振だったのは問3で、

本文の「(鳥が) 里親に引き取られる」=「新しい家を見つけてもらう」という関係がつかみにくかったようだ。

**第6問 説明的文章の読解****時間配分や解答の順序にも注意しよう！**

例年出題される説明的な文章を素材とした内容一致問題である。今回の得点率は53.0%だった。Aの5問の正答率は50%弱から60%台後半とよく健闘していたが、各パラグラフの見出しを問うBだけが20%台に留まった。時間の効率を考えると、Bの空所は本文を読み進める途中で、随時埋めるようにして行くのが得策である。無回答率が3%台から5%台にまで及んでいるのが目立ったが、時間的な余裕さえあれば、決して難しい問題ではない。今後効率のよい解き方を覚えるにつれて、この最後の問でも得点を伸ばしていくことが期待される。

**Ⅲ. 学習アドバイス**

今回は第1問・第2問についてアドバイスを述べておこう。第1問の発音・アクセントの分野については、母音字と子音字が表す基本的な音声は中学英語で学習済みのはずである。センター試験の対策としてはその基本に多少の肉付けをして、出題頻度の高い単語の発音を優先して覚えたい。その際にはぜひ音読を心がけよう。また、アクセントでは特に語尾の形でその位置が決まるケースも多く、これらの規則を覚えることも役に立つ。ただし、その際にも字面のみを見て覚えようとするのでなく、必ず声に出して覚える習慣をつけてほしい。

第2問では文法・語法・語彙など多面的な力が試される。文法については、教科書や標準的な問題集を通じて知識を定着させておくことが必要である。文法の力は、Aの文法問題だけでなく、Bの整序問題やCの文完成問題でも問われることになる。さらには、あらゆる読解の基礎でもある。この分野の対策は早いうちに取り組んでほしい。熟語や語法も第2問で重要な位置を占める。それらについても、基本的なレベルは問題集などでカバーできるが、完璧を期することはなかなか難しい。その意味では、語彙力アップを兼ねて、なるべく多くの英文を読むことを心がけるのが得策であろう。遠回りのように見えても、多読の効果を信頼すべきである。